

間 下流木津川ノ末ニシテ西方桂川伏見川ノ末ト合シテ入難波江也中頃此橋今ノ所ヨリ一  
 町餘北ニアリ孫橋大橋小橋共皆是秀吉公時設ル所也大橋別名長橋詠和歌此名今ハ無シ按ニ  
 上古ニハ此橋一ツ在テ餘無二橋古大橋ハ自此北ニアリ下流又今ニ異リ今ノ對戸ノ渡ノ在大東  
五町西ヨリ御牧ノ東ヲ經テ淀川ニ入り大橋ノ下ニ出シ也

〔京羽二重名橋〕淀大橋 長サ八十餘丈木津川にまたがる丑寅より申酉に渡る橋なり秀吉公是  
 を掛給ふ

小橋 淀がわに有下流巽ハ木津川北ハ宇治川及伏見澤の落合也橋南北ニ渡ル長サ七十間一  
 尺五寸此橋ハ當所ニ城郭造營ノ時秀吉公掛らる上古ハ橋一ツ有て是ハ南ニ有と云り  
 孫橋 淀町の中ニ有大はしと小橋との中ニ有謂也

〔遊囊贖記〕九 淀ノ大橋長百三十七間幅四間五寸木津川ノ下流ニカ、ル小橋長十九間五尺幅三  
 間三尺宇治川ノ下流ニカ、ル加茂川大井川皆北ヨリ此末ニ合流スカク衆水ノ聚ル處ナレバ、  
 其衝ニ當ル地ヲ淀トイフナリ

〔都名所圖會〕五 淀川は五畿内第一の大河にして六國の水こゝに歸會す略中

大橋木津川の末にかゝる橋 小橋宇治川伏見の澤等の下流にかけるはしなり

〔日本紀略〕十條 長徳元年十月廿一日甲午石清水行幸今日淀河無泛橋以數百艘船所渡也  
 〔夫木和歌抄〕二十一 永万二年五月平經成卿家歌合五月雨よどのうきはし  
 五月雨に水のまこもやかくるらしよどのうきはしうきまさりゆく  
 加茂政平

〔遠碧軒記〕一儀 淀ノ橋ハ後嵯峨院御宇始造橋也

〔太平記〕三十一 八幡合戰事附官軍夜討事

山名右衛門佐師氏出雲因幡伯耆三箇國ノ勢ヲ卒シテ上洛ス路次ノ遠キニ依テ荒坂山ノ合戰